



おいしさ運ぶ★一番星

スターゼン株式会社

スターゼン レポート

2015年3月期(第76期)第2四半期 2014年4月1日～2014年9月30日

証券コード:8043



「チームスターゼン」として
攻めの経営を展開。
バイタリティある企業グループへと
さらに前進します。

—— 代表取締役社長 **中津濱 健**

株主の皆様には、日頃より格別のご支援ならびにご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期(2015年3月期第2四半期累計期間)の食肉業界は、国産・輸入食肉ともに出荷頭数の減少に加え、疾病(PED※)の発生などから市況は非常に高値で推移しました。

このような状況のなか当社グループは、国内営業基盤の強化策として生産加工拠点の増強、販売・物流機能の強化に取り組むとともに商品群の拡充に注力しました。

さらに、海外事業の強化策として、EU市場へ向けて牛肉の輸出を開始するとともに、需要伸長が著しい東南アジア市場では、2013年10月設立の現地法人「スターゼンシンガポール」が販売を本格化しました。このように食肉輸出事業の強化策においても市場拡大を積極的に推進し、国内・海外とも“攻め”の経営を展開しました。

業績につきましては、主力の食肉部門は取扱量、売上

高ともに増加、加工食品・ハムソーセージ部門は取扱量、売上高ともに減少しました。この結果、当第2四半期の連結業績は売上高1,358億28百万円(前年同四半期比8.6%増)、営業利益22億69百万円(前年同四半期比262.5%増)、経常利益25億57百万円(前年同四半期比129.7%増)、四半期純利益は16億36百万円(前年同四半期比208.1%増)となりました。

引き続き当社は、少子化・高齢化および人口減少による国内マーケットの変化に対応するため、販売子会社の合併を行うなどグループ全体の効率化を推進してまいります。併せて食の安全・安心の基本となる国際規格「SQF」認証取得の継続推進、コンプライアンス教育の徹底など、安全衛生・品質管理体制を確立して、“チームスターゼン”として全社員一丸となって「バイタリティある企業グループ」へと力強く前進していく所存です。

今後とも株主の皆様の変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※PED(豚流行性下痢)：豚・猪の感染症。2014年に日本や米国などで発症が増加。

売上高

出荷頭数の減少などにより相場が上昇しましたが、積極的な拡売に取り組んだ結果、売上高は増加し、1,358億28百万円（前年同四半期比8.6%増）となりました。

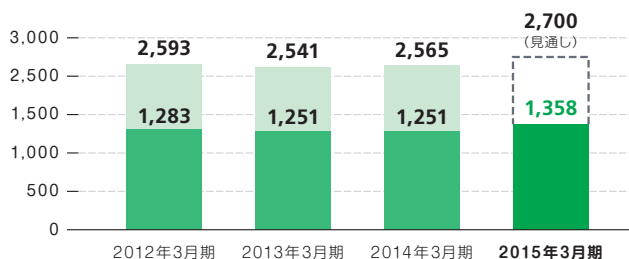
営業利益・経常利益

売上高の増加に伴い、営業利益は22億69百万円（前年同四半期比262.5%増）、経常利益は25億57百万円（前年同四半期比129.7%増）となりました。

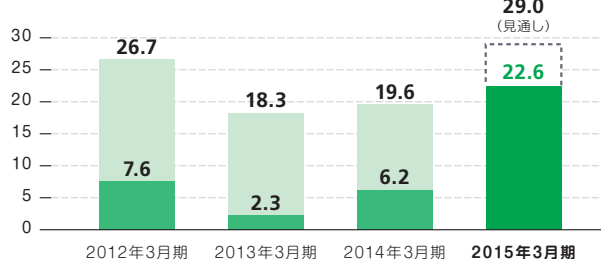
四半期純利益

四半期純利益は16億36百万円（前年同四半期比208.1%増）と大幅に増加しました。

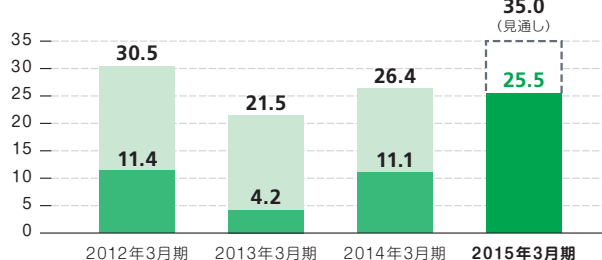
売上高(億円) ■第2四半期(累計) ■通期



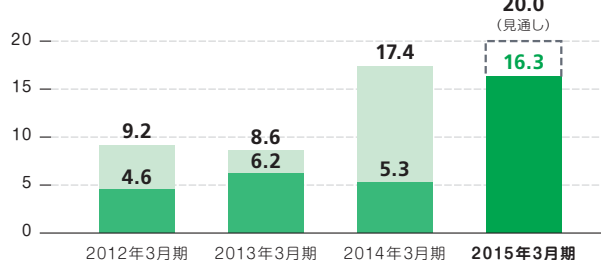
営業利益(億円) ■第2四半期(累計) ■通期



経常利益(億円) ■第2四半期(累計) ■通期

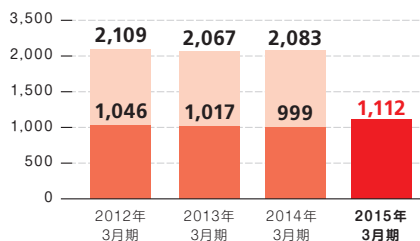


四半期純利益(億円) ■第2四半期(累計) ■通期



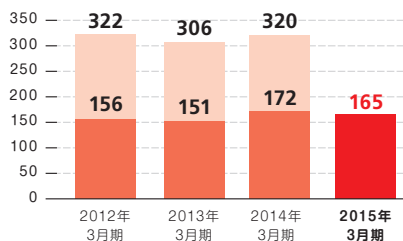
食肉 売上高(億円)

■第2四半期(累計) ■通期



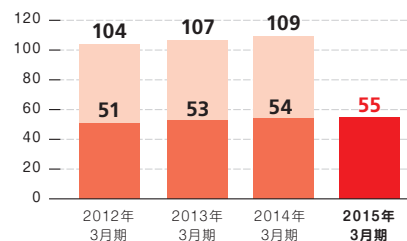
加工食品 売上高(億円)

■第2四半期(累計) ■通期



ハム・ソーセージ 売上高(億円)

■第2四半期(累計) ■通期



安全・安心の確保と変化する市場への対応、 2つの側面から積極的な施策を推進しています。

当社グループは、食の安全・安心を持続的に確保するとともに、変化する国内外の市場環境に迅速な対応を図ることを大きな経営課題と捉え、多様な施策を推進しています。当上半期は、新たな有望市場であるEUへの和牛の輸出を開始した一方、国内では協業推進により生産・販売の効率化を図るなど、国内外で営業・販売力の強化に注力しました。また、安全・安心の面では、引き続き国際規格「SQF」の導入などを進め、高い評価を受けました。

1

食の安全・安心の確保

- SQFの導入推進
- コンプライアンス教育の再徹底

2

国内市場の変化への対応

グローバル化への対応

- 国内営業基盤の強化
- 食肉の輸出拡大、
海外での新規事業の展開
- 海外からの商品調達の強化

グローバル化への対応①

EU加盟3カ国へ向けて 「鹿児島和牛」の輸出を開始

当社グループは2014年6月、国内業界に先駆けて、有望な新市場である欧州連合（EU）への和牛の輸出を開始しました。当社関連会社の阿久根食肉流通センター（鹿児島県）が、EUの基準を満たす食肉処理施設として認定を受けたことにより輸出が可能となったものです。6月16日の第一便ではイギリス、フランス、ドイツに鹿児島和牛を初出荷しました。和牛は高級レストラン向けなどで現地バイヤーの関心が高く、今後の市場拡大が期待されます。現在、当社グループでは、牛肉で10カ国、豚肉で4カ国への輸出が可能であり、今後も輸出拡大を積極的に図る計画です。



6月16日に開催された輸出第1便出発式

グローバル化への対応②

海外展示会への出展をはじめ 新市場の開拓を積極的に推進

人口増加や新興国の発展を背景に、世界的に食肉需要が増加しています。また、今後、経済自由化に向けた国・地域間での連携協定*の締結が進展すれば、さらなる食肉需給状況の変化も予想されます。

こうした変化に対応するため、当社グループは、海外での営業活動や現地ネットワーク拡大に注力しています。当上半期はアジア最大級の食品展示会「香港フードエキスポ」を始め5カ国の展示会に出展して商談を進めるなど営業・販売活動に特に注力し、海外市場開拓を加速させました。

※環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)、
経済連携協定(EPA)など



「香港フード
エキスポ 2014」で
「Wagyu」の
おいしさを
アピール

グローバル化への対応③

EU 向けなど和牛輸出に貢献し 「食品産業技術功労賞」を受賞

当社は食品産業新聞社が制定する「2014年度(第44回)食品産業技術功労賞*」において、EU等への和牛輸出に貢献したとして国際部門で功労賞を受賞しました。食肉の輸出にあたっては、各国が要求する高度な衛生条件、精度の高い衛生検査などを満たした「輸出食肉取扱施設」の認定を受ける必要があります。特にEUでは厳しい基準を設けています。当社グループがこうした基準に積極的に対応し、農林水産省が重要施策と位置付ける和牛輸出に貢献したことが評価されました。

※国内または海外で、食品産業の発展に著しく貢献した企業、個人、団体を表彰する賞



輸出事業の展開

										
	香港	マカオ	フィリピン	タイ	シンガポール	ベトナム	カナダ	米国	ニュージーランド	EU
牛肉	○	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎
豚肉	○	○	—	—	○	◎	—	—	—	—

※◎は 2014 年 3 月以降に輸出可能となった地域

国内市場の変化への対応①

林兼産業(株)との提携による 生産・販売面での取り組みを拡大

当社は西日本における販売拡大を一つの目的として、2014年4月に林兼産業(株)と業務提携を結びました。以降、双方の事業を補完する形で連携を深めています。現在、同社が生産する「霧島黒豚」や「赤鶏さつま」の販売を当社グループで開始しているほか、当社グループのハム・ソーセージ製品の生産を同社へ委託しています。今後は、商品の開発やその販売面でも共同化を推進するなど、協業体制のさらなる強化をめざしていきます。



当社で取り扱いを開始した林兼産業(株)の主力ブランド

国内市場の変化への対応②

営業・販売体制の効率化に向け 販売子会社2社の合併を決定

当社グループは、2015年4月1日をもって、スターゼン販売(株)がスターゼン広域販売(株)を吸収合併し、さらなる販売拡大と提案営業力の強化を図ることとしました。両社の顧客基盤や販売機能を統合し、市場の変化に迅速に対応できる体制を構築すると同時に、管理部門をスリム化することが主なねらいです。今後もグループ全体の最適化を図っていく考えです。

食の安全・安心の確保

食品衛生全国大会において 優良施設として厚生労働大臣から表彰

当社グループは食の安全・安心の確保を重要な経営課題と位置付け、食品安全・品質管理に関する国際規格「SQF」*の認証取得を対象となるすべての拠点で進めているほか、従業員へのコンプライアンス教育にも継続的に取り組んでいます。

こうした自主的な取り組みが高く評価され、2014年10月、公益社団法人日本食品衛生協会「食品衛生全国大会」において、スターゼンミートプロセッサー(株)阿久根工場が「食品衛生優良施設」に選ばれ、厚生労働大臣から表彰状を授与されました。今後も当社グループは、衛生管理体制のさらなる充実に取り組めます。

*「Safe Quality Food」の略。食品の「安全性」と「品質」を確保するための国際認証規格。



対象拠点の94%(53事業所)
で認証を取得
(画像はキング食品のもの)



公益社団法人日本食品衛生協会と厚生労働省が選抜した119の施設(法人)が表彰。食品関連施設は全国に410万と。

会社概要

設 立	1948年6月17日
本 社	〒108-0075 東京都港区港南二丁目5番7号 港南ビル
資本金	98億9,975万円
主な事業内容	1.食肉の加工および販売 2.畜産物の生産、加工および売買 3.食肉および畜産物の輸出入 4.食品の製造、加工および売買
主な販売先	スーパーマーケット、食肉専門店、百貨店、 外食産業、コンビニエンスストア、生協、 食品加工メーカー、食肉卸売業、その他
従業員数	2,216名（2014年9月30日現在）

役員（2014年9月30日現在）

代表取締役会長	鷗 橋 誠 一	執行役員	林 育 司
代表取締役社長	中津 濱 健	執行役員	渡 辺 郁 洋
常 務 取 締 役	永 野 章	執行役員	定 信 隆 壮
常 務 取 締 役	中 井 俊 夫	執行役員	矢 野 勉
取 締 役	寺 師 孝 一	執行役員	横 田 和 彦
取 締 役（社 外）	鈴 木 宏	執行役員	茂 原 馨
取 締 役（社 外）	太 田 泰 介	執行役員	岸 博 之
取 締 役（社 外）	善 宝 俊 文		
常 勤 監 査 役	片 山 学		
常勤監査役（社外）	北 條 秀 樹		
監 査 役（社 外）	杉 島 光 一		
監 査 役（社 外）	吉 原 大 吉		

株式の状況（2014年9月30日現在）

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	87,759,216株
株 主 数	17,750名

大株主の状況（2014年9月30日現在）

名 称	所有株式数 （千株）	割合 （%）
株式会社三井住友銀行	3,249	3.70
農林中央金庫	3,044	3.46
クレディ スイス ルクセンブルグ エスエー オン ビハーフ オブ クライアンスツ	3,040	3.46
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,799	3.18
スターゼン社員持株会	2,498	2.84
株式会社鷗橋興産	2,349	2.67
クリアストリーム バンキング エス エー	2,250	2.56
三井物産株式会社	2,216	2.52
株式会社みずほ銀行	1,603	1.82
横浜冷凍株式会社	1,532	1.74

組織図



株主優待のご案内

日頃からご支援いただいている株主の皆様に感謝の気持ちを込めまして、株主優待を所有株式数に応じ次の通り進呈いたします。



自社グループ製品（3月のみ）※写真は2014年3月期の実績

1,000株以上
3,000円相当



ハム類詰合せ

5,000株以上
5,000円相当



ハム類詰合せ

10,000株以上
8,000円相当



国産和牛ステーキ肉



1,000株以上

歳暮ギフト（9月）、中元ギフト（3月）を
通常販売価格の20%割引（送料無料）にてご案内



1,000株以上

「ローマイヤおせち」の割引販売（数量限定）
20%割引（送料無料、9月のみ）にてご案内

スターゼングループの商品はインターネットでご購入いただけます。

ローマイヤ 通販ショップ

<http://www.lohmyer-shop.com/>

楽天市場

<http://www.rakuten.co.jp/starzen-k/>

ぐるなび 食市場

<http://shop.gnavi.co.jp/starzen/>



ローマイヤ通販ショップ

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
- 剰余金の配当基準日 3月31日
- 定時株主総会 毎年6月下旬
- 公告方法 電子公告 (<http://www.starzen.co.jp/ir/koukoku>)
ただし、やむを得ない事由によって、
電子公告による公告をすることができない場合には、
日本経済新聞に掲載して行います。
- 単元株式数 1,000株
- 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲1丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

当社ホームページのご案内

当社の各種IR資料をご覧いただけるほか、
オリジナルのコンテンツを豊富にそろえています。
ぜひ当社ホームページをご活用ください。



トップページ

IR情報ページ



<http://www.starzen.co.jp>

スターゼン株式会社

〒108-0075 東京都港区港南二丁目5番7号 港南ビル
電話：03-3471-5521

